

## 第25回 日本ボランティア学習学会 島根大会 開催要項

大会メインテーマ

# 地域共生社会のボランティア学習 ～多世代がつながる地域づくり、人づくり～

日程	2022年11月26日(土) ～ 11月27日(日)
会場	松江市総合福祉センター(1日目) いきいきプラザ島根(2日目)
主催	日本ボランティア学習協会 第25回 日本ボランティア学習学会 島根大会 実行委員会
共催	大阪健康福祉短期大学 松江キャンパス
後援	島根県、松江市、島根県教育委員会、松江市教育委員会、島根県社会福祉協議会、松江市社会福祉協議会、島根大学、島根県立大学、しまねの社会教育を振興する会、青少年育成島根県民会議、松江市青少年育成連絡協議会、企業ボランティア松江ネットワーク会議、日本赤十字社島根県支部、島根県社会福祉士会、山陰中央新報社、朝日新聞松江総局、読売新聞社松江支局、毎日新聞社松江支局、中国新聞社、新日本海新聞社、株式会社島根日日新聞社、TSKさんいん中央テレビ、株式会社山陰放送、日本海テレビ、NHK松江放送局、山陰ケーブルビジョン

### ■大会趣旨

今、地域社会は大きな転換期を迎えています。超高齢・人口減少時代、更なるコロナ禍……。人としての生き方が問われ続ける社会変動の中で、社会は経済縮小に歯止めを掛けることに注力し、少子社会に生まれた若者たちにその担い手としての役割を求め、それを可能にする能力の習得を期待しています。

しかし、本来若者たち一人ひとりのエネルギーが自らの人としての育ちに注がれ、彼らが全ての生きるものの存在の価値に気づき、世代を超えてつながり合うことによってはじめて暮らしやすい地域社会の礎を築くことになると思います。

この意味においてボランティア学習は、社会の改革と創造を目的とする掛け替えのない主体者としての学びの機会を提供するものであり、そこでの学びの実体が、世代や立場を問わず、全ての社会の構成員に連鎖・循環することを私たちは希望しています。

本大会は、島根県下から草の根のボランティア学習活動主体を集め、その存在を共有し、それらを社会資源に育てるために、全国津々浦々の叡智を集め、支援ネットワークを構築することを目的として開催します。

### ■日程及びプログラム内容

◇1日目 松江市総合福祉センター4F

【開会行事 12:40～13:20】

#### <オープニングイベント>

まつえ文化夢大使/長唄・三味線演奏家 杵屋五司郎(簗田 司郎)氏 による「松江舟唄」演奏

杵屋五司郎氏は2002年、日本青年奉仕協会と日本ボランティア学習協会が共催した全国ボランティア学習研究セミナー島根県大会で、演奏とともにボランティア活動の体験を披露され、参加者の感動を呼びました。こうしたご縁から市民、地域、学校とつながり、2006年には「松江舟唄」を作曲し、まつえ文化夢大使としてもご活躍されています。

(踊り：美月波利哉 他/コーラス：東出雲ボランティアグループ ひまわり)

<開会式>

- 協会代表挨拶 日本ボランティア学習協会 代表理事 興梠 寛 氏
- 実行委員長挨拶 大阪健康福祉短期大学 学長 眞鍋 穰 氏
- 来賓挨拶 島根県知事 丸山 達也 氏  
松江市市長 上定 昭仁 氏

<アレック・ディクソン賞授賞式>

【基調講演 14:30~15:30】

山陰中央新報社 論説委員長 松村 健次 氏

「島根発信～地域共生社会の地域づくり・人づくり～」

47都道府県で人口が2番目に少なく、高齢化率が3番目に高い島根県は、人口減少と少子高齢化という重い課題を抱える日本の「縮図」と言える地域です。一方で離島のハンディを売り込み、都会から児童生徒とその家族を呼び込む「島留学」を成功させた海士町や、「A級グルメ」をテーマに食と農を生かしたまちづくりを進める邑南町など、「島根発」の地域創生の動きが注目を集めています。ともに住民の支援があつてこそ輝いているのです。

【大会記念シンポジウム 15:30~17:30】

「地域共生社会のボランティア学習

～多世代がつながる地域づくり、人づくり～」

<シンポジスト>

NPO法人KEYS代表 藤原 睦己 氏  
雲南市副市長 吉山 治 氏  
広島大学IDEC国際連携機構 教授 石田 洋子 氏

<コメンテーター>

日本ボランティア学習協会 代表理事 興梠 寛 氏

<コーディネーター>

大会事務局長（大阪健康福祉短期大学 学長代理） 余村 望 氏

大学生の目から見るボランティア活動、町づくり人づくり政策としてのボランティア活動、国際的な視点から見るボランティア活動。そこにはどんなねらいや課題があるのでしょうか。年代も、住む地域も違う人たちが今ある何かを共に変えていくことは、果たして本当に可能なのでしょうか。

地域共生社会の創造を目指す社会的志向性の中でボランティア学習のあり様を探ります。

【会員総会 17:35 ~ 18:20】

◇2日目 いきいきプラザ島根4F

【自由研究発表 9:15~10:15】 ※ 発表者募集中 11月18日まで

【分科会 10:20~13:20】 ※ 内容等は変更される場合があります。ご了承下さい。

分科会	第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会	第5分科会
テーマ	人口減少、少子高齢化社会の進行、バリアフリーのまちづくりなどで企業やNPO法人が地域拠点となって次世代につながるボランティア活動の展開。	「公民館・交流センター等の地域づくりボランティア活動」国際化、少子高齢化の今、地域住民と共にある公民館・交流センター等主導による行政を超えた支え合いづくりは不可欠!	災害ボランティアの重要性と展開～明日、起こるかもしれない災害に向けて。	ボランティア学習で、子どもたちが動き、大人が動き、ひとつの好循環、地域づくりの盛り上がりを作り出そう!	社会福祉協議会がめざす“人づくりから地域づくり”への「福祉の学び」とボランティア学習の姿を共有する。
分科会の概要	島根県内(出雲市、益田市、松江市)の地域課題やニーズを企業、NPO法人のチカラ・職場の特性をいかした地域貢献の事例報告。また人々とつながり障害のある人たちとともに地域づくりをめざし、若者とつながるボランティア活動事例を紹介する。	公民館等は地域のニーズに合致したボラ活動の支援が肝要。「あかやてご(手伝い)する会」は高齢者の支えあい、雲南の「Goto ボラ」は中学生ボラのきっかけづくり、「たまめん」は長期に及ぶ若者のボラ事例。三者三様の個性的取り組みに注目。	災害国家・日本では災害ボランティアの必要性が増し、一人一人が災害への意識を高めることで生命身体財産を守ることができる。特に、次世代を担う若者の防災・減災の重要性と必要性の理解が国の防災力を向上させる。当分科会では、その実態・意義・推進方法について考察する。	子どもたちを対象としたボランティア学習を、学校を始めとした様々な教育機関等が連携・協働してつくり、未来の地域の担い手(市民)として主体的に活動しようとする気持ちの醸成を図ることを目指している。県内の特色ある事例を紹介する。	島根県は過疎発祥の地であり福祉教育発祥の地とも言われている。ここでは、社会福祉協議会の使命である福祉の学びによって『共生社会の実現』をめざした事例2件と、シニア層の「人生100年時代」へ生き生きとした事例を紹介する。
助言者	柴崎 あい (愛媛ボランティア学習研究会事務局長)	馬場 祐次朗 (全国視聴覚教育連盟会長) (オンライン参加)	高田 研 (都留文科大学地域社会学科特任教授)	大坪 直子 (全国体験活動ボランティア活動総合推進センター・コーディネーター)	立柳 聡 (福島県立医科大学看護学部准教授)
コーディネーター	山本 寿子 (日本ボランティア学習協会会員)	山口 信夫 (郷土史研究家)	林 繁幸 (防災・危機管理アドバイザー 八雲公民館運営協議会副会長 松江市町内会・自治会連合会理事)	大畑 伸幸 (益田市教育委員会ひとづくり推進監 協働のひとづくり推進課長事務取扱)	田原 秀樹 (島根県福祉教育推進協議会副会長)
発表 ① 10:20~11:05	株式会社中筋組	赤屋交流センター 「あかやてごする会」	島根県立大学出雲キャンパス 災害研究会	浜田第一中学校区 「放課後遊び隊」	海士町社会福祉協議会
	献血や就学・食料支援、工事現場での見守りや清掃活動、学校の補修など「社会のために存在する」企業です。令和2年度県民いきいき活動奨励賞受賞!	過疎地域住民の助け合いである本会は発足6年。通院補助・草刈り・雪降ろしなど有償ボラで支えあう制度として定着。知事表彰も受賞。	防災ピクニック&防災オリピック 2019 を開催しました。河川敷公園まで歩いて行き、土手の高さ、川の水量、災害時の危険箇所などを自分たちの目で確かめ、避難行動などについて、地域住民のみなさんと学生たちで考えた成果をお伝えします。	ボランティア学習「小学生の遊びの場づくり」の授業のボランティア実践の場として、中学生が小学生の放課後の遊びを支援する活動。平成19年から実施。	「いきいきと死ぬる島」を標榜する海士町社協での、地域社会に根差した福祉教育実践の一部を紹介する。
発表 ② 11:10~11:55	益田自動車教習所Mランド	雲南市・雲南交流センター	ピリッキーノ&天理教災害救援ひのきしん隊島根教区隊	明誠高等学校 「キャリアサポート」	浜田市社会福祉協議会
	そうじとハガキとあいさつにより、地域と共に、地球と共に心を育む M ランドという自動車教習所。	令和3年、市は中学生にボラのきっかけづくりを開始。木次の自主組織による清掃・料理教室・イベント参加。市内200事業所への3日間の職場体験等、今後注目。	出雲市総合ボランティアセンターと作成した「災害ボランティア学びブック」で老若男女問わず災害支援の実態を捉えます。	高校2年生が年間を通して20地区の公民館をフィールドに地域活動を作る授業。公民館職員や地域住民との協働で、様々な活動づくりを経験している。令和元年から実施。	安心して暮らせる「わが家」のような地域づくりを目指し、住民と共に「ふくしの学び合い」を推進している。
発表 ③ 12:00~12:45	NPO法人 プロジェクトゆうあい	たまゆメンバーズくらぶ (玉湯公民館)	福祉哲学研究所	一般社団法人 豊かな暮らしラボラトリー (通称:ユタラボ)	島根県社会福祉協議会 くにびき学園
	私たちは障害のある人、ない人、ちょっとある人、隔てのない、よりよい地域をつくっていきます!	玉湯に若い力を!15年前公民館が中学生に文化祭参加を呼び掛けて発足した「たまめん」は、今や清掃・募金活動・公民館行事にと活躍、地域の活性化にも貢献。	専門職ボランティアの意義と活動を検討する。特に社会福祉分野における社会福祉士と福祉系大学の活動を探る。	高校生や大学生のボランティア学習の場の提供と地域での活動のコーディネートを行っており、その事例の紹介。「ミライツクルプログラム」を開講し、高校生が立ち寄るサードプレイスとなっている。令和2年度から実施。	この学園は、シニア層が地域に新たな活躍の場を見つけ、生き生きと暮らすための学びの場である。
12:50~13:40	分科会報告・総括 閉会式				

## ◇申し込み方法

【受付開始】 9月下旬以降

【申し込み方法・申し込み締め切り】

- ① 学会員の方は、日本ボランティア学習協会ホームページ <http://www.volunteer-learning.jp> 内の「学会の開催」の申し込みフォームに記入して送信してください。
- ② ホームページにアクセスできない場合は、[michiharuk@mac.com](mailto:michiharuk@mac.com) まで、以下の項目をメール送信してください。

(1) 氏名 (2) 都道府県 (3) 所属先 (任意) (4) 会員・非会員 (5) 参加形態 来場・オンライン【一日目】参加・不参加 【二日目】(6) 自由研究発表：参加・不参加 (7) 分科会1：参加・不参加 (8) 分科会2：参加・不参加 (9) 分科会3：参加・不参加 (10) 分科会4：参加・不参加 (11) 分科会5：参加・不参加 ※「来場・オンライン」は、参加の方のみが選択してください。

③ 島根県内の方で、FAXで申し込みをされる場合は、申込書に必要な事項をご記入の上、島根大会事務局 (FAX：0852-67-3805) までお送りください。

④ 申し込み締め切り 11月18日 (金)

◇参加費 会員 500円 / 非会員 1,000円 / 大学生・高校生以下 無料  
(事前申し込み・当日申し込み、オンライン参加、会場参加、会場参加、前日参加、部分参加、いずれの参加形態でも同じ金額です。)

【振込先】※ 振込手数料につきましては、ご負担くださいますよう、よろしくお願いたします。

金融機関名	金融機関コード	支店名	支店コード	預金種別	口座番号
山陰合同銀行	0167	島大前支店	100	普通	4536525

口座名義：日本ボランティア学習学会 島根大会 口座名義カナ：ニホボラティアガクシウガクカイ シマネカイ

この事業は、松江市社会福祉協議会から配分を受けた篤志寄付金 (香典返し当寄付) を財源として行っています。

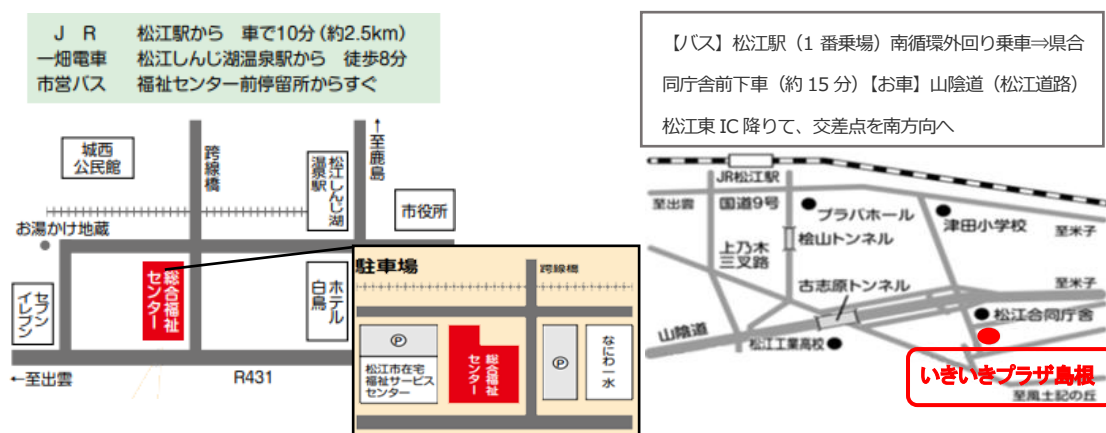
## ◇開催形態

- ・ご来場あるいはオンラインで参加できるハイブリッド型での開催を予定しています。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大状況により、すべてオンラインでの開催に変更になる場合もございます。ご了承下さいませ。

◇大会会場・アクセス等 \*駐車場の情報は、10月末までに協会HPに掲載いたします。

< 1日目：松江市総合福祉センター >

< 2日目：いきいきプラザ島根 >



◇問い合わせ 第25回 日本ボランティア学習学会 島根大会 事務局

〒690-0823 島根県松江市西川津町4280 大阪健康福祉短期大学 松江キャンパス内  
(島根大会事務局：宇山・宮澤) E-mail [JVLS-shimane@kenko-fukushi.ac.jp](mailto:JVLS-shimane@kenko-fukushi.ac.jp)  
TEL 0852-67-3716 FAX 0852-67-3805